

【札幌地区ミニバスケットボール秋季大会代表者会議】

U12 カテゴリー 部会長 齊藤 八起

この夏大変な蒸し暑さの中、8月の末には熱中症アラートが発出された際、子どもたちの安全確保を最優先に各ブロック中期リーグ中止や、各チームの活動中止の対応を取ってくださったことに心から感謝申し上げます。朝夕は涼しくなってきたとはいえ、まだまだ今月の蒸し暑さについては油断できませんが、各チームのこの夏の熱中症対策などはいかがでしたでしょうか。各チームの指導者代表として、保護者の代表として、ご自身のチームの活動は子どもたちにとって十分安全な活動でしたでしょうか。

令和2年3月に改訂された、「札幌市立学校に係る部活動の方針」をご存じの方も多いと思いますが、目にしたりお読みになったりしことはございますか。「部活動」ですが、小学生の少年団活動においても大切にしなければならない基準です。そこには、

- ・毎週、土曜日及び日曜日、週末のいずれかを休養日とする。
 - ・少なくとも週に一日は、平日に休養日を設定する。
 - ・通常の活動時間は、長くとも平日2時間程度とする。
 - ・土日、祝日、長期休業中の活動時間は、長くとも3時間程度とする。
 - ・長期休業期間中の休業日の設定は、生徒が十分な休養を取ることができるとともに、部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間、オフシーズンを設ける。
 - ・週末に大会参加等で休業日を設定せずに活動した場合には、休養日を他の日に振り替える。
- などと、荷重な負担にならないよう留意することとあります。

各チームの活動を振り返るといかがでしょうか。練習を休みにすると勝てない等という漠然とした不安から、つついやり過ぎということはないでしょうか。放課後の学校体育館を利用した練習だけでは仕事の関係で指導できないことを理由に、学校開放の夜間練習ばかり多くなっていることはないでしょうか。使える練習会場や時間帯、回数、そして指導スタッフの仕事や生活など、各チームの状況は様々だと思いますので、たくさんの苦労や工夫を重ねながらの運営だと思います。その際に、夜間練習の全てがいけないとかそういうのではなく、例えば21時半、22時という時間に小学生、特に低学年が帰宅するような活動が多くなったり、暑い夏だからこそ鍛える、といった指導者の信念のもと長時間、長期間の練習に固執したりすると、子どもの健康や学校生活に影響が出るなど、子どもや保護者への負担につながります。学校関係の指導者が少なくなった現状では、指導体制や練習環境などでご苦勞されているチームが多いと思います。やり過ぎれば負担やケガ、健康面が心配されますし、逆に練習回数が少なかったりスタッフが指導できない練習が続いたりすれば、子どもたちの上達や活動の満足につながらず、不満が出ることもあるでしょう。

指導の充実と活動の満足の両立は簡単ではないと思います。しかし、この蒸し暑い夏の経験を生かして、安全で楽しくて、しかも勝ったり上達したりする喜びや負ける悔しさも感じられるそのようなミニバスケットボール、アンダーカテゴリーであるために、これからも、指導者と保護者がコミュニケーションを大切に、厚い信頼関係のもと互いに心をつなげて、子どもたちの安全と活動を支えてくださると大変うれしいです。本日は各チームの代表の方がお集りのはずですから、会議の情報の共有と、秋季大会成功へのご理解ご協力をお願いいたします。ありがとうございました。